特別
へ13
4271
40

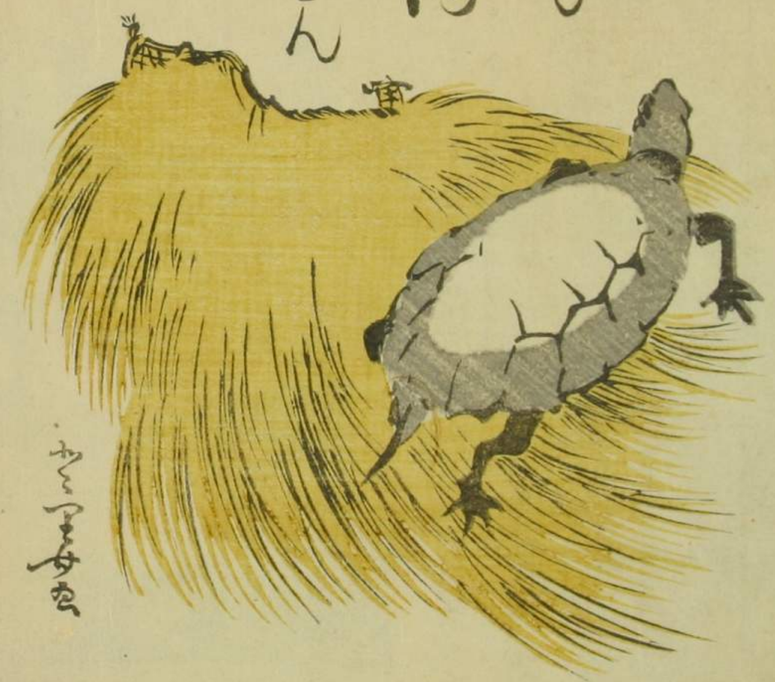
特別
へ13
4271
39

特別
へ13
4271
39

へ13
427
39

わかめうり
ハぢん侍
こけ五ん

文溪堂梓



91-2282

経傳史子を讀そ。苦学年を積ざれバその理を窮めること難し。ちなべ男子と生れてもらまゝ聖教を聽ぢるあり。兄や婦幼を。人の善悪を見るとハ我もとの善あるんとハ思ひ又悪事を見て懼れ慎むこゝハ善悪をへて吾師ん果敢なき業子物語も。経史の意味を失ハでよく懲戒を正しくまねまび世ん萩麥ごゝも辨へぬ。婦幼の教草ん是ん増を捷経ん。ちのこゝ祖父の夜話ん折々聞なる。耳底ん残りて忘れもせぞ去々歳の冬ありしてとの合巻ん筆採。初てん本文ハ原書の抄録切て序文ん櫻花丹楓見せんとありへど拙き才。飾るよりもの綾錦なつと早き月と日の。学の暇燈を掲げてもあせ一編。いと鳴呼ゞもこの序閑きハ奈良茶屋の煮豆去歳の餅固くらしいと看官の厭ふべしとハ百も承知。三文の智恵もあけまど千慮の一得あ

嘉永六癸丑年冬稿成同七甲寅秋新刻

曲亭琴童識

琴童

里見の五剣君濱路姫

古今集第五

武田の信昌

堀

夏
厨

出
賢

信
夏

道
濱

信

信
道

大
文
潰

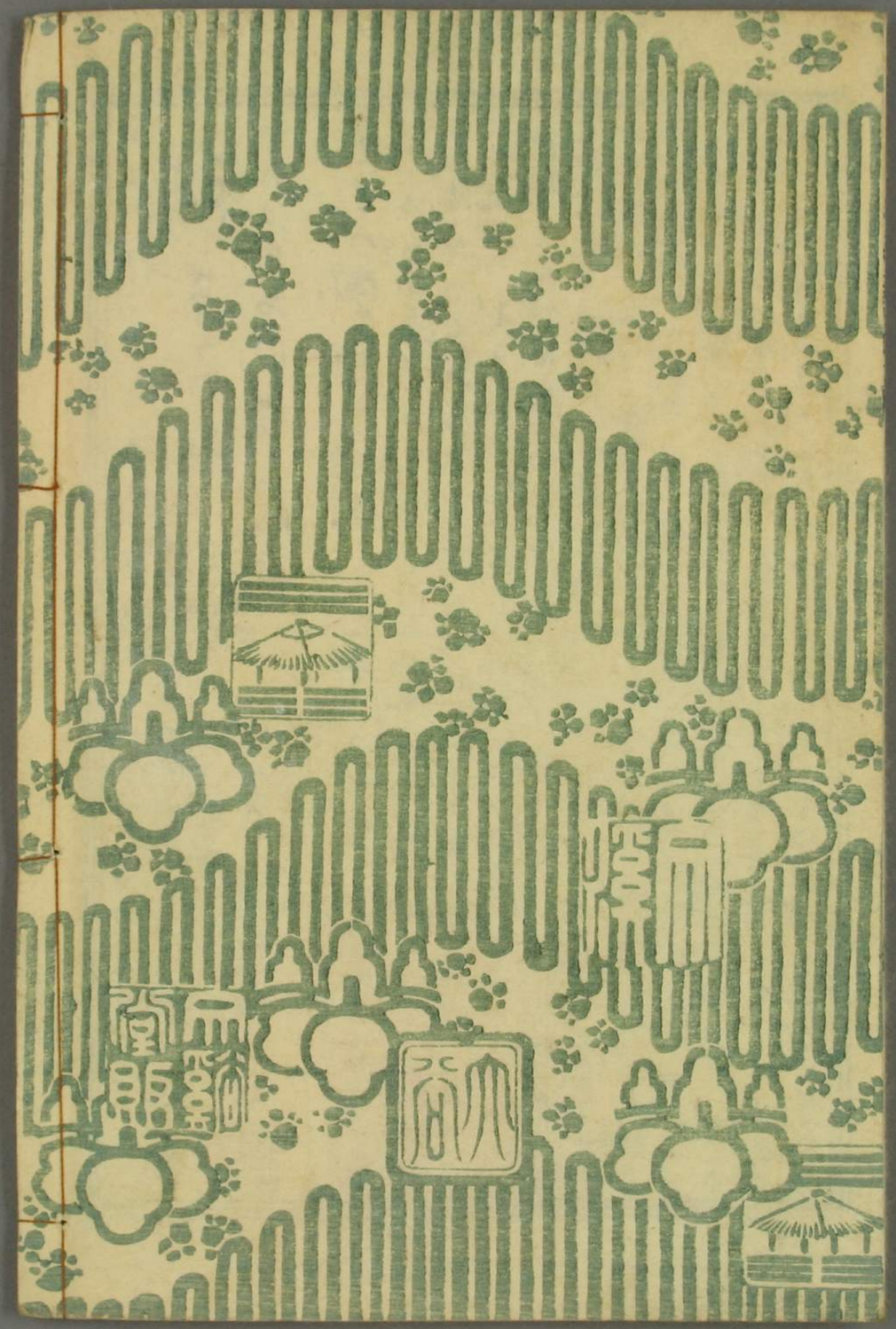
夏
出

尭

曲亭琴童抄録

一勇齋國芳画

内業御用達
朝さくら
一名江戸市川香
賣弘所 江戸大傳馬町二丁目 丁子屋平兵衛
東都
調合所 鷄舌館製



特別
へ13
4271
40

N13
4271
.40

一勇斎国芳画

琴童作

仮名読

八犬傳

二十一編

文政年間

91-2283

つぎ
奈
温

大
信
道

三十両
をさう
せんとて
さて
そうげ
のこまさ
ようかや
内をば

人目まぶ
ることをあのひと
ろ用のゆく
みければ

つゞき

家傳神女湯 一包代百文
婦人疝気虫の妙薬 一包代五分
能膳黒丸子 一包代五分
精製竜應丸 大包代金二朱 中包代百文 小包五分
製藥本家 瀧澤氏
元飯田町中坂下男の角
弘處

曲亭琴童抄錄
勇齋國芳画

貴賤共に悦ぶ梅の業うも更ふあるべし白紙の代とうる世るふ粉の製極みの上粉の業化粧の水
夏月ふあけぼの冬つのくびの肌月代細ふ白粉のよくのるゆゑ
きろゆう光ふる業延ふ法るさ孫を消ふれ徳利八分
酒八ろく機活運動を助ふ費を発く最上ふれ
酒又晨ふ有る酒酔の酔酒外業の毋出業に用ふる
春の色の艶ろ出ろく速ふ酒毒を消ふ粉業あり

良の業花橘 代六十四孔
梅の雪 代七十二孔
花橘

御免 かんの業 一包 半包百 小包五十 銅
ふ四方病のゆゑ中ふ和みさふ
大和門司法橋製

たんまく やうねんの業 一貼代百文四銅
たんまくやうねんふ与ふる人法ふ用ひくそくそうあり乳成めぐし考せんを
ぬーげんきとそくのふ与ふ
江戸大傳馬町二丁目
丁子屋平兵衛

文溪堂

嘉名誉美
八犬傳 廿一
第

曲亭
琴素著

一勇斎
国芳画